◉駿河湾沼津静浦港発↓沼津沖

紅い魚の豪華リレー釣り 沼津沖のマダイ&アマダイ

本誌APC（東京）／鈴木良和 Yoshikazu Suzuki

1月15日、釣友2人と沼津静浦港の真成丸へ向かった。

真成丸は夜タチウオを看板に周年出船しており、私も昨年お世話になっている。

もちろん夜釣りだけでなく日中も出船しており、釣り物はその季節によって変わるが、今の時期はマダイとアマダイのリレー釣りになることが多いようだ。

▲沼津沖の深場には1キロ級主体に3～4キロ級の大ダイも潜む

マダイ狙いからスタート

6時前に7名のアングラーを乗せて出船。前日に低気圧が通過したので海況が気になったが、静浦は入り江のような地形のため波風の影響が少なく、波をまったく被らずにポイントへ到着した。

6時半になり、「水深は85メートル。タナは海面から65メートルです。リールのカウンターではなく道糸のマーカーでタナ取りしてください」と高橋判船長のアナウンスでマダイ釣りからスタートした。

ビシを指示ダナよりハリス分の10メートル下まで下ろし、仕掛けが潮になじんだら数回に分けてコマセをまいて指示ダナに合わせる。

竿をロッドキーパーにセットし、置き竿でマダイからのラブコールを待った。

しばらくすると、

「いい反応が出てきましたよ」と船長がマイクで伝えてきたので魚探を確認すると、今まで底周辺にあった魚影がコマセに反応して浮いてきた。

その直後、私の竿がアタリをとらえたので、合わせを入れると確かな手応えが伝わる。ところが巻き上げの途中でオオマツリしてしまい痛恨のハリス切れ。続いて右舷トモの克己さんがヤリトリを開始して1キロほどのマダイを釣り上げると、左舷トモの藤澤さんにもヒット。

「あまり大きくはなさそうだけど」と言いつつ600グラムのマダイを抜き上げた。

チャンスタイム到来とばかりに皆さんの気合が入ったものの、潮がミヨシからトモ側に向かって流れているためか、次にヒットさせたのも左舷トモの藤澤さん。慎重に巻き上げ、800グラムのマダイを取り込んだ。

その後一服状態が続き8時になったところで「アマダイにしましょう」と船長から釣り物変更が告げられた。

釣り場はマダイのポイントとほぼ同じ。小移動した後に、「オモリを底から1メートル巻き上げたところで誘いを入れてください。たまに海底をオモリでたたいて砂煙を上げつつアマダイにアピールしてください」と船長からアドバイスが流れる。

水深は85メートル。海底はアマダイの住み家に適した砂泥地となっていた。

さっそくアタリをとらえたのは藤澤さん。釣り上げたのはおいしいゲストの25センチ級のカイワリだ。

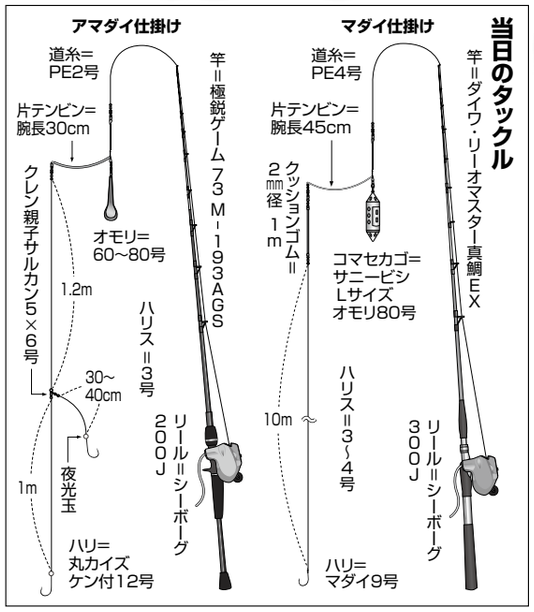
誘い上げた直後、私の竿にコツコツとアタリ。一呼吸置いてから合わせると無事にハリ掛かり。巻き上げ途中の水深の半分ぐらいを過ぎたところで激しく抵抗を見せたことからアマダイだと確信。

思ったとおり海面にポッカリと浮かんだのは30センチほどのアマダイだった。

次にアマダイをヒットさせたのは右舷胴の間の長池さんで、こちらは32センチだった。

•Tackle Guide

マダイ仕掛けはハリス3～4号10メートルの1～2本バリ、アマダイ仕掛けはハリス3号で2メートル前後の2本バリ。どちらも付けエサにはオキアミを使用する。タックルはマダイ用、アマダイ用と2本を用意するのがベストだが、7：3調子のライトタックルなら両方に流用できる。



大型アマダイがヒット

釣友の菱沼さんがイトヨリを釣り上げたので写真を撮っていると、右舷トモで歓声が上がる。行ってみると克己さんが50センチ1.6キロのジャンボアマダイを釣り上げた直後だった。

良型のアマダイを見て「次は俺の番だ」とばかりに誘いに力が入る。すると今度は右舷ミヨシの菅沼さんにヒット。

連続で50センチのアマダイのご登場かと思ったが、釣り上がったのは1.5キロのマハタ。隣の席の長池さんのタルの中を覗くと、こちらにも1キロ級のマハタが入っており、聞いてみるとここの流しで釣れたとのことだ。

驚いたことに菅沼さんは2尾目となる1キロのマハタを追釣したので、なんで砂泥地なのにマハタが釣れるのか船長に伺ったところ、

「根の際を流しているのでここではマハタも高確率で釣れるんですよ」とのことだった。

それを聞いた私はさらに集中して誘いを繰り返しているとゴツゴツとしたアタリをキャッチ。

マハタがきたのかと思いニマニマしながら巻き上げてくると海面を割ったのは800グラムほどのオニカサゴだった。

残念ながらその後マハタは釣れなかったのだが、本命のアマダイやイトヨリ、オニカサゴなどが飽きない程度に釣れている。

3尾目のアマダイゲットと釣友の菱沼さんが釣りを楽しんでいる横では、

「ようやく2尾目が釣れました」とこちらも釣友の米光さんがアマダイを持って写真に収まってくれた。

11時の沖揚がりの時間を迎えると船長が、

「夜タチウオも好調なので写真を撮って宣伝してくださいよ」とお願いされた。

聞くと藤澤さんが前夜の夜タチウオ船に乗船したらしく、クーラーの中には48本のタチウオが入っている。

「せっかく沼津まで来たのだから夜、昼と連チャンで釣りを堪能しました」と満足した笑顔で写真を撮らせてくれた。

ちなみに昼の釣り物は釣況次第でターゲットが変わる可能性があるので宿に確認してほしいとのこと。

昼、夜と連チャンで乗船してくれたお客さんには船代の割引サービスもあるというので、たまには釣り三昧を味わってみるのも悪くないだろう。

▼アマダイは良型が目立った

▲カイワリも交じった

◉船宿 information

駿河湾沼津静浦港

真成丸

☎090・4465・6972

（詳細は巻末の情報欄参照）

高橋 判船長

▶料金＝マダイ＆アマダイ乗合一人1万円（エサ、氷付き）

▶備考＝予約乗合、5時半集合。　夜タチウオは3人より出船

知っ得！ Tips and Tricks 正確なタナ取りのために

コマセマダイは正確なタナ取りが必須。そのため道糸はキッチリ10メートル単位にそろえておくとタナボケしにくい。ただし夜明けが遅いこの時期は暗くて道糸のマークが見づらいので、事前にリールのカウンターにどれぐらい誤差があるのかをチェックしておき、暗い内はカウンターに頼るのもいいだろう。

▲当地は海面からタナを取る

●すずき　よしかず／「こんなに寒いのによく釣りに行くねぇー」と言われて「魚が俺を呼んでいるので」と答えたが、そんなわけがありませんよね。